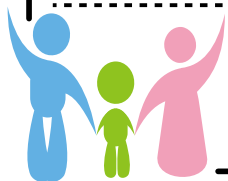


I はじめに・・・



子どもに寄り添うときに
いつも意識しておきたいこと・・・

1 困っている子どもの気持ちを知る

*「困っているのは子ども」という
視点で考える

*障がいの有無で子どもを見ない

子どもはどんなことに困っているの？

- 感覚が敏感（におい、音、接触）
- 分からなくて不安
 - ・これからどうなるのか
 - ・ここがどんな場所なのか
 - ・今、何をするのか
 - ・遊びたいけど、ルールが分からない
 - ・体をどう動かせばよいのか
 - ・先生の話していることが何なのか
 - ・いつになったら終わるのか
- 大勢の中で落ち着かない
- 食べられる物がない
- 言いたいことが言えない

2 子どもの気持ちを受け止める

*なぜ、そのようなことをするのか、
一度立ち止まって考えてみる

*子どもの発達段階を知る

*育てにくい子どもを育てる保護者の
大変さを理解する

*親の気持ちに寄り添う



手引の使い方

子どもの気になる行動には、必ず背景があり、理由があります。しかし、発達障害では障害があることが一見して分かりにくいいため、行動を良く観察し、そこから原因や背景を推測し、そして困っている子どもの気持ちに寄り添った対応を工夫していく必要があります。

「生活かんさつ表」(P9-10)

園内の生活の中から子どもの行動をもとに、保育者の「気づき」を整理、また振り返る機会とします。保育所・幼稚園内の情報共有を図ったり、支援の評価及び関係者への情報提供をする際の媒体としても活用できます。

「支援のポイントと対応 (Q&A)」 (P11-24)

「生活かんさつ表」の項目に沿って、子どもの行動から原因や背景を推測し、原因の見立て（仮説）を複数示しています。また見立てに添った「環境設定の工夫のヒント」「関わり方のヒント」を掲載しています。「家庭との連携のポイント」についても、園から家庭への働きかけの参考にしましょう。



子どもたちにとって保育所・幼稚園の先生は、将来を左右する重要な大人の1人です。一番困っているのは、子ども自身であることと考えることからスタートです。ここに書いてある4つの点を意識しながら、この手引きを使ってみてください。くり返し意識して、その子にあった接し方を見つけていきましょう。

3 その子に合った工夫をする

- * その子の発達の特性を考える
- * (大人の都合ではなく) 子どもにとって良い方法を考える
- * 子どもたちが自ら行えるようになるよう、環境を整える
- * その子に分かる方法で伝える
- * 保護者と一緒にその子に合った方法を探す

4 子どもと共に成長する

- * 1人で抱え込まず、園長や特別支援担当に相談をする
- * 園全体で話し合いの場をもち、自分たちのレベルアップを図る
- * 上手くいったら園全体で実践。工夫はみんなのためになる
- * ポイントが分かれば保育の場でのゆとりができる



「個別の指導計画」(P25-26)

「支援のポイントと対応(Q&A)」を参考にしながら個別の指導計画をまとめていきます。園内で一貫した支援を行うためには、誰が見ても分かりやすい目標と手立てを示した計画が必要です。

また、気になる行動だけでなく、長所や伸ばしたい行動、保護者からの情報についても記載しておく、よりその子に即した計画になります。

「参考資料」(P29-30)

県内にある主な関係機関の一覧です。発達障害を早期に見つけ、早期に周囲の色々な関係者の支援を受けて育ったお子さんの予後は良好です。

普段から、地域で活用できる資源(園への巡回相談や、保健センターでの発達相談、特別支援学校の教育相談など)についても知っておき、日頃から関係機関とのコミュニケーションを大切にしましょう。

